

平成 23 年度 事業計画

＜平成 23 年度の活動指針＞

- ①公益社団法人日本油化学会の発足に当たり、新しい定款の下で本会の活動を開始する。また、必要な体制整備を行う。
- ②学術面では、World Congress on Oleo Science & 29th ISF (WCOS 2011, 東京)を10月10日(月)～13日(木)に開催し、第50回年会(研究発表会)はWCOS 2011の中で行なう予定であったが、東日本大震災とその後の状況を勘案し、2012年秋開催に延期せざる得なくなった。計画を再設定中である。その他、フレッシュマンセミナー、JOCs-ILSI ジョイントシンポジウムをはじめとして、新しい時代のニーズに即した企画で、専門部会・支部によるセミナー・講演会等を実施する。
- ③学会誌：学術論文誌「JOS」は、国際誌として新たな発想の下に、国際社会に貢献できるように努める。また、会員誌「オレオサイエンス」は会員に役立つ情報の発信および親しみやすい雑誌づくりを目指し、HP(ホームページ)による敏速な情報発信についても努力する。
- ④平成24年度に予定している第51回年会および創立60周年記念大会(学術討論集会)は、長崎県(佐世保市)で実施することを決めており、関西支部を中心に準備を進めてきた。WCOSの延期を受け、60周年記念大会は、WCOSとの同時開催を目指す。また、同60周年記念事業の一環として、「オレオサイエンス フェア(仮称)」の開催を検討する。更に、既に準備を進めている60周年記念出版：「油脂・脂質・界面活性剤データブック」の編集(2012年発行予定)を推進する。
- ⑤社会貢献の一環として、財団法人油脂工業会館との共催で実施している地区講演会(市民講座)は、本年度も3支部が中心となって全国の地方都市で行なう。

1 会務

1.1 総会

第57回定時総会を平成23年4月29日、日本大学駿河台校舎で開催する。社団法人日本油化学会としての平成22年度事業報告(報告事項)、平成22年度決算案などについて審議し、新法人の平成23年度役員を選任を行う。正会員全員を社員とした総会として開催する。定時総会終了後、全会員を対象に総会報告会を開催し、定時総会および新執行体制について報告する。さらに日本油化学会フェロー推戴、功績賞、平成22年度日本油化学会学会賞、進歩賞および女性科学者奨励賞の各賞の選考結果報告と表彰を行う。

1.2 理事会

平成23年度理事会の開催予定は5回。平成23年度会長(代表理事)、副会長(代表理事)、常務理事(業務執行理事)の選定、運営委員長、各業務委員長および支部長等の選任、諸事業計画の企画・実行、平成23年度収支決算案および平成24年度収支予算案等、重要案件について審議し、決定する。

1.3 運営委員会および運営会議

運営委員会の開催予定は6回。運営会議は必要に応じて開催する。運営委員会および運営会議は理事会上程する重要案件について詳細な審議を行うが、さらに日本油化学会の活動方針について議論を進める。

1.4 業務委員会およびその他委員会

総務委員会は、公益社団法人としての内部体制の整備と会員への周知を行う。さらに、会員の表彰に関する見直しや、ホームページの充実についても継続的に検討する。

2 事業計画案

2.1 本部事業

第12回を迎えるフレッシュマンセミナーは、5月には「油脂と脂質」について、6月には「界面科学と界面活性剤」についてそれぞれ開催し、日本油化学会が編纂・出版した教本の普及に努める。7月に「油脂と脂質」および平成24年2月には「界面科学と界面活性剤」についてアドバンスセミナーを開催し、企業中堅層への支援を図る予定である。11月には第9回界面活性剤評価・試験法セミナー、12月には第11回基準油脂分析試験法セミナーを開催し、日本油化学会が制定した試験法の定着を図る。

2.2 支部活動

各支部による講演会・セミナー等は、例年に倣い開催するが、支部の特徴を生かす工夫を行う。また支部活動の一環である地区講演会（財団法人油脂工業会館共催）は香川市（関西支部）、厚木市（関東支部）、静岡市（東海支部）および高知市（関西支部）の4都市で開催する予定である。油化学の視点から市民を対象とした啓発活動を積極的に展開したい。

2.3 専門部会活動

専門部会活動については、オレオマテリアル部会、界面科学部会、洗浄・洗剤部会、オレオライフサイエンス部会、油脂産業技術部会、オレオナノサイエンス部会および食品油脂機能構造部会の7部会体制で展開する。各専門部会は部会長の指導のもと、専門性の追及と研究者の交流に重点をおき、専門部会主催シンポジウム・セミナー等の充実と定着化を図る。油化学会活動の基盤は専門部会活動が担うとの共通認識のもと、常に独自性を意識し部会活動の活性化を図り、本会活動基盤の強化に努める。

2.4 会誌

学術論文誌「Journal of Oleo Science (JOS)」と会員誌「オレオサイエンス」を各12号発行する。「JOS」はJ-Stageのオンライン投稿システムバージョン3への移行を推進し、投稿の利便性を高め国内外からの積極的な原著論文投稿を募る。また、国際誌としてのインパクトファクター値および知名度向上に努める。「オレオサイエンス」は、「生物の機能における脂質の重要性」や「界面膜を分子レベルで分析する分光学的手法」などの特集企画9件および総説5件を各号へ掲載するほか、解説記事、イベント実施報告、Q&A、研究室紹介など会員への情報提供の充実とカラー紙面の採用など、魅力ある会誌づくりに努める。

2.5 日本油化学会年会

日本油化学会年会は本年で50回目の節目を迎える。それを記念して、本年は国際会議WCOS2011として、タワーホール船堀（東京都江戸川区）において、10月10日（月）～13日（木）に開催する予定であったが、前述のとおり延期せざるを得なくなった。代替事業〔例：日本油化学会 学生発表会（仮称）〕も含めて、再計画中である。

（平成23年2月28日／一部修正：4月29日 公益社団法人日本油化学会 会長 島崎弘幸）